

## 第8回マンホールサミット in 北九州



北九州市上下水道局下水道部 下水道計画課

緒方 恵里奈

### 1.はじめに

「第8回マンホールサミット in 北九州」は、平成30年11月3日に、北九州芸術劇場中劇場及びリバーウォーク北九州周辺で開催されました。今回が第8回目となる「マンホールサミット」は、「リレートーク」、「グッズ販売会」、「マンホール蓋実物展示」などを通じて、マンホール蓋及び下水道の魅力について発信することを目的としています。

このイベントは、「下水道広報プラットホーム」という官民一体となり下水道を広報する組織が、平成26年に東京都で開催したことが始まりです。第1回の開催時から、マンホール蓋の歴史や技術の進歩、魅力等を語り合う場として、官民間わざ多くの方が参加されたそうです。その後、人気イベントとして全国各地で開催され、今回、第8回目の開催を北九州市で実施しました。

九州初の開催地となった北九州市は、平成30年に下水道事業100周年を迎える、下水道の役割や重要性を市民の皆様に伝えるため、さまざまな記念事業に取り組んできました。その記念事業の一環として、マンホールサミットを誘致した、「世界に誇ろうマンホール文化」をサブタイトルに掲げ、さまざまなイベントを実施しました。



マンホールサミットのチラシ

## 2.リレートーク

マンホール蓋、そして下水道の魅力を語る「リレートーク」は、北九州芸術劇場中劇場で開催しました。ご登壇いただく方を検討するなかで、ベルリン森鷗外記念館キュレーターであるペアーテ・ウォンデ氏が、日本でブームになる前からマンホール蓋に興味を持たれていたことを知りました。そこで、日本の文化物であるマンホール蓋について海外から見た視点で講演していただくと、大変興味深いものになるのではないかと考え、依頼したところ、快くお引き受け下さいました。

ウォンデ氏は、「マンホールとアイデンティティ 日本独自の文化の魅力」をタイトルに講演してくださいました。マンホール蓋について、私達が普段意識しないような、国外からの目線で、お話をいただいたため、私自身も今までなかったマンホール蓋の魅力に気付くことができました。

ウォンデ氏は講演の中で、「祖国ドイツでは、マンホールの絵柄は1種類であるため、日本のように地域ごとに、その特色を活かしたデザインが存在することが、日本の文化を表現しており、非常に面白い」とおっしゃっていました。また、「それぞれの地域・場所で違うマンホール蓋が見られると、散歩が楽しい」とも話しておられたウォンデ氏は、正真正銘のマンホーラーで、国を越えてマンホール蓋の魅力を共有できることに感激しました。

ウォンデ氏をはじめ、マンホーラー達の熱い講演により、会場は大興奮、700名の会場は常に満員で、大盛況でした。



リレートークの様子

### 3.屋外イベント

リバーウォーク北九州周辺では、「グッズ販売会」、「マンホール蓋実物展示」等のイベントを開催しました。「マンホール蓋実物展示」では、福岡県下のマンホール、北九州市のマンホールの展示の他に、全国でも人気の高いマンホールを展示し、「ポップカルチャーの街・北九州市」らしい展示ができたと感じています。その他にも、マンホールスタンプラリー、マンホール拓、マンホール缶バッヂづくり、マンホールぬりえ等を実施しました。これらのイベントを通して、普段なかなか目に触れることがないマンホール蓋、そして下水道について少しでも知っていただける良い機会となったと感じています。



屋外イベントの様子

### 4.おわりに

「第8回マンホールサミット in 北九州」は、全国各地のマンホーラーの方々が集い、過去最多の5,000名もの方々にご参加いただきました。このイベントを通して、マンホール蓋、そして、下水道の重要性を伝えるきっかけづくりが出来たと感じています。私自身、今回の経験を通じ、今以上に下水道の見識を深めるため、今後も精進していきたいと思います。